

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」を核にして、自分たちの理念を作り共有しているが、全職員が全て理解し実践に繋がっているとは言えない。	法人の理念「共に歩む」を基本にホーム独自の目標として「利用者様の笑顔を力とし、今日というこの日を大切に一步一步共に歩みます」を定め意識づけがされている。各ユニットに掲示して共有しており、サービス提供場面で理念にそぐわない言動が見られた時にはユニットリーダーからの報告を受けて管理者が注意を喚起している。毎月のホーム会議では個人の価値を低める行為17項目を復唱しケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所のスーパーへ買い物に行ったり、散歩をした時に周辺で畑作業する方と話をする。時々、花や野菜を頂くなど交流している。	自治会に加入し地区行事のお知らせを頂いている。地区文化祭に参加し利用者の作品も出展させていただき、会場でも地域の人々との会話が弾むなど交流する良い機会となっている。利用者の散歩コースが畑の中にあり声をかけていただいたり、野菜の差し入れも多くある。たまに地域の方がホーム駐車場のいすに腰かけ話しをしていくこともある。小学校のマラソン大会には沿道で応援したり、紙芝居、太極拳、花笠踊りなど、いくつもボランティアグループが定期的に来訪するなど、地域の方々との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や運営推進委員の方々に「認知症カフェ」「認知症サポーター養成講座」など開催時にはご案内している。又、相談がある時は対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催時に現状報告、活動報告を行い、頂いた意見・アドバイスは真摯に受けとめ、業務改善等に反映している。	定期的に開催され、区長、民生委員、福祉委員会代表、町保健福祉課職員、法人副理事長等の出席と共に、今年度からホーム職員も交替で出席している。会議では活動報告等に対して出席者それぞれの立場から意見が出され業務の改善につなげている。10月開催の家族会に運営推進委員会のメンバーも参加し利用者と触れ合い、また、家族会の取り組み内容を理解していただけたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議の連絡、相談・質問等ある時のみ現状。定期的な地域ケア会議の開催が無い為、ケアについての連携はない。	介護認定更新はホームで家族立ち合いの下、調査員と利用者の情報交換を行っている。問い合わせ等何かある時は町役場に相談・連絡をし連携を深めている。定期的な事業所連絡会等はないが、隣接する同じ法人の老人福祉施設で町のオレンジカフェが開催されるようになり、地域の方とのつながりやホームの活用なども考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で定期的な勉強会を行い、年2回「身体拘束チェックシート」で点検する等取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上と町道沿いの立地条件の為危険性を考慮し、現行は施錠となっている。	防犯上、玄関のみ施錠しているが他は開錠している。外出傾向の強い方には職員がさり気なく一緒に玄関脇のベンチに座り景色を眺めたりおしゃべりをして気持ちに寄り添っている。転倒予防のため、家族の了解を得て数名がチャイムを利用しているが、なるべく頼らずに職員がきめ細かく見守りしている。年2回「身体拘束チェックシート」で点検し拘束のないケアを徹底している。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員、定期的な勉強会を行い、身体的虐待は勿論のこと、心理的虐待にも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場での勉強会には至っていない。成年後見制度を利用している方もおり、必要な支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はしっかり時間をかけて行っている。心配な事はないか常に気を配っており、生活全般についても説明し理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや家族、又は面会時など常にお声をかけ意見を頂戴している。又、玄関に意見箱を設置している。頂いたご意見は全職員に周知し改善へと反映している。	ほとんどの利用者が自分の要望を言葉で表出することができる。家族にはおたよりや来訪時の声かけの中から意見を伺うようにしている。家族会が年2回開かれ、春はホームの草刈りや窓ふき等の環境整備を行うなど積極的に関わっていただいている。利用者や家族から出された意見はその都度職員で話し合い支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体職員会議や管理者との面接で、意見・思いを聞いている。内容により適した対応をしている。	毎月25日に職員全体会議を行い、できるだけ全員参加を心がけ、勉強会や委員会報告等を受けて活発に意見交換している。各ユニット会議も月1回実施し、具体的な個別ケアの取り組み等について話し合っている。目標管理制度が導入されており、半年に1回、管理者との面接の中で職員が目標の振り返りをすると共に意見や要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の現状・意見は上長へ報告している。上長が現場に来ることの無いのが現状ではあるが、法人全体としては企業努力は認められる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は多種多様 計画されており、職員一人ひとりが自ら積極的に選び学べる機会は充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、他事業者同士 勉強会では会うが自らのサービスの質を向上させるような交流には至っていない。法人外への会議・研修会等への参加にも理解がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちを一番に考え、声を聞いている。希望しないことは勧めない等、ご本人が安心する関係・環境づくりを常に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向は勿論、不安なことやご意見を聞くことで、良い関係づくりを常に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク面接の際、現サービスと今後必要とされるサービスがあることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を常に意識して一緒に考え、共に生活するという気持ちで関わることをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の情報・状況を詳細に伝えて、意向をお聞きしながら、ご協力を頂いている。ご家族の中には過度な協力を負担に思われる方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院に出かけたり、手紙を郵便局まで出しに行く等の支援をしている。ご家族・親戚・近所の方の面会を大切にして、地域・社会と触れ合える外出も欠かさないようにしている。	家族以外にも親戚や近所の方が面会に来られ、つながりが継続できるように支援している。パーマをかけるために家族の付き添いで馴染みの美容院に出かける方もいる。場合によって家族の都合がつかず美容店の好意で送迎サービスを受けることがあるが、その時の責任の所在についてホームとして検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性・性格等を把握し、交流できるよう介入了り、レクリエーションの提案をして関係性を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了したご家族が今も定期的に訪問していただき、「お楽しみ会」など催し物がある時はお誘いをすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会あるごと、又は日々の会話の中でご本人の気持ち等聞いている。詳細に渡りいつもと違う様子を情報共有して対応するようにしている。	ほぼ全員の利用者が思いを表出できる。「何がいい?」という聞き方でなく「〇〇と〇〇のどっちがいい?」という聞き方に心がけ、そこから思いを具体的に把握するように努めている。あまり語らない方には、入浴介助などの1対1になるような機会にさりげなく引き出すようにしている。把握した情報は記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前情報に加え、ご本人との会話やご家族からも折に触れ伺いながら、サービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は職員間で情報共有し、ご本人にとって一番良い方法を常に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族、時に主治医を交えて話し合いをすることで、現状に即した介護計画を作成している。	職員はそれぞれ1~2名の利用者を担当している。記録は担当職員が行い、3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。本人や家族、時には主治医を交えて話し合いを行い、現状に合わせた介護計画を作成している。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的に注意するべきことは当然だが、どんなことで「笑顔」が見られたのかを大切に、実践及び見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が付き添えない時には受診の付き添いを行っている。 デイサービスを継続利用されている方がいる。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容院を継続利用している。 職員同行で公衆温泉浴場に行くなど、ご本人の意向に沿った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望をお聞きした上で、ご家族対応受診の方、往診の方すべての主治医とは連絡を密に取るようにしている。	利用前からの主治医を継続されている方は三分の一弱おられ、家族が付き添い受診している。その際には状態報告用紙で様子を伝え、受診結果も報告されるので職員間でも情報を共有しケアに活かしている。他の方は、ホームに往診していただける医師に変更し関係を密にしている。週1回、隣接する同じ法人の老人福祉施設の看護師の訪問があり継続して相談できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化は常に医療連携看護師へ報告している。異常時は早期に医療へ繋げ、適切な受診又は治療となるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、詳細な情報を医療側へ伝え、病院関係者と密に情報交換をしている。日々、良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居段階で最初の説明を行っている。その後、重度化・終末期を見極めるタイミングをきちんと行い、話し合う機会を設けている。最善は、ご利用者の負担にならない事だと思っている。	ホームでの看取りの経験がある。重要事項説明書にホームとしての方針が明記されており、利用契約時、状態が変化した時など段階的に説明し理解を得ている。本人や家族の意向に沿って対応しつつ、利用者の負担にならないように安心して納得した最期を迎えられるように主治医との連携を密にし取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使っての勉強会とモデル人形・AEDを使った実践勉強会を定期的に行っている。今年度は12月に予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の施設内訓練を行い、全職員が災害時には的確な行動を取れるようにしているが、地域との協力体制づくりには至っていない。	年間計画に基づき、年2回の総合防災訓練と地震想定対応訓練を1回実施している。訓練の繰り返しの重要性を感じ、利用者を含めて真剣に取り組んでいる。この冬も夜間に地震があったが、職員がすぐに利用者の状況を把握し管理者に連絡をするなどの的確に対応している。今後はホームだけでなく、地域の方々の参加・協力が得られるようにしたいという意向があり、そのために地区の防災訓練に参加したり消防団との連携もとれるようにしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名字でお呼びし、常に丁寧な言葉使いを意識しているが、職員の中には守られていない者もあり、都度注意しあっている。又、慎重な内容の話をする時は、必ず居室で行っている。	利用者や家族の意向に沿って、同姓の方以外は苗字に「さん」付けでお呼びしている。入浴や排泄はできるだけ同性介助を心がけ、本人の気持ちを大切に考えている。接遇研修を行い、互いに注意しあいながら人格を尊重し接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならない為に、ご本人に決定して頂けるような声かけを意識している。又、説得という行為にならないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れや生活リズムは大まかに決まっているが、その中でもご本人のペースに沿って過ごして頂き、無理強いをしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服等、ご本人が選び決定している。困難な場合は、その方らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活かし、何が食べたいかを伺いながら、できることを一緒に行っている。	ほとんどの利用者が自力で食事がとれるが、よく噛まなかったり、かき込んでしまうなどの利用者については見守りや一部介助が必要となっている。献立は食材を見て、利用者と職員で相談して決めている。もし、不足の物があれば買い物に出かけている。近隣の畑の方からの野菜の差し入れもあり季節の食材として活用させていただいている。利用者も食器を拭いたり片付けたり、また、干柿づくりや漬け物作業等、できることには積極的に関わっていただいている。月1回は近くの飲食店で外食を楽しまれ、多くの笑顔が見られるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひと月の体重の増減や時に主治医の指示に従い一人ひとりの現状に即した支援に努めている。栄養士が居ないので、栄養バランスに関しては学ぶ必要性を感じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアをしている。歯ブラシ・舌ブラシ・口腔ティッシュ等、必要時は個々に提供し、状態によっては歯科医に繋げている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの尿量・習慣や表情・様子等を見極め声かけをしている。又、排せつケア用品のコストダウンやご本人の負担軽減を常に考え、自立に向けた支援をしている。	布パンツで自立されている方や全介助の方などがおり、一人ひとりに合わせケア用品や声がけで個別対応している。夜間、本人の希望でポータブルトイレを使用される方もいる。職員は個々の排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけしたり誘導を行い、本人に一番適したケア用品で無駄なく自立に向けたケアができるように試行錯誤しながら対応している。ケア用品の見直しについては随時、家族に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排せつパターンを見極め、乳製品・繊維質の食べ物の提供や水分量の調整、又は運動等の対応をしているが、ほとんどの方が排便調整薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は職員側で決めてしまっている。時に、入浴困難な方の場合 夕方にしてみたり、ご本人の意に即した曜日・時間で提供している。	週2日は入浴しており曜日と時間の設定がある。入浴を拒む方には時間や介助者を変えたりタイミングを見計らっているが、利用者の意向に沿い臨機に対応しており無理強いすることはない。また、同性介助を希望される男性がおり対応している。温泉に行きたいとの希望もあり、近くの「ながたの湯」に数名の利用者と職員で出かけ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不調時の離床は無理せず、眠れない時は職員が寄り添うなど、一人ひとりに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容書は個人ファイルで常に把握できるようになっており、変更時は一覧表にて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別で把握し、ケアプランに反映している。個別での外出支援や役割を持てる仕事として台所仕事・花や野菜の管理などをして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へのお出かけは 常に支援しているが、毎日という訳にはいかないのが現状である。ご本人の希望があれば、協力して出かけられるよう、積極的に支援をしていきたい。	それぞれの利用者に合わせて外出支援を行っている。1対1でできるだけ戸外に出掛けるようにしており、日々の買い物から、ちょっとそこまで散歩などにも声掛けしている。行事外出は年間計画に沿って、花見、ぶどう狩り、紅葉狩りなどを楽しんでいる。また、近くの温泉地や外食に出かける機会を作り、外出を楽しんでいる。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個人で所持している方には、定期的な買い物支援を行い、ご本人が買い物をしている。ご入居者全員のお小遣いを預かっているため、個人で買い物時は職員が同行して買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、充電が切れないよう気配りをし、ご家族からの電話はご本人につないでいる。又、手紙のやり取りができるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間環境は、居心地よく過ごして頂くように 花を飾り、落ち着いたような音楽をかける等 工夫している。	玄関を入ると落ち着いた色調で統一されており、そこから二つのユニットがL字型に広がっている。木のぬくもりに包まれた明るい食堂兼ホールは天井が高くウッドデッキに面しているため広々として陽当たりもよく明るい。大きなソファが置かれ、そこで落ち着いて過ごされている利用者も見受けられた。地区文化祭に出品したホーム建物の貼り絵や各利用者手作りのクリスマスリースが居室入り口に飾られ、華美にならないように季節感を出しながら落ち着いた雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛け、二人掛けのソファなど その時のお一人おひとりの状況に合わせて過ごして頂いているが、もっと居場所づくりに力を入れていきたいと思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れた家具や写真など、ご本人・ご家族の意向をふまえて置いている。居心地よく過ごして頂けるように工夫している。	使い慣れた家具や思い出の品、写真などが持ち込まれ、一人ひとりの利用者に合わせた生活空間ができている。押入れが収納スペースとなりすっきりとして清潔な居室となっている。手作りの作品を飾ったり、パイプハンガーラックを置き衣服をわかりやすく整理するなど工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を明確にしたり、歯ブラシ類など個々で自由に使用しやすいようにしている。又、台所・くつろぐ場所・ベランダ等をしっかり区切ることで、生活のメリハリをつけ、且つ両棟を自由に行き来できるようにしている。		